

学部・研究科 Faculty/Graduate School	法/文/経/商/社/政策/外/人間/シ/環/化/安全/総情	時間割コード Course Code	*****
科目名 Course title	社会人基礎力養成プログラム Program for developing essential competencies	授業形態/単位 Term/Credits	春/2
サブテーマ Subtitle	社会でよりよく生きる力を育む To live better in the real world	クラス Class	A 1
担任者名 Instructor		権限 Day/Period	

授業概要 Course Description 到達目標 Course Objectives	<b>授業種別 / Teaching Types</b>
	演習 (対面)
	<b>言語 / Language</b>
	日本語(Japanese)
	<b>授業概要 / Course Description</b>
	<p>大学は職業人になるために必要な社会人基礎力を身につけることのできる最後のステージです。経済産業省は社会人基礎力を「前に踏み出す力（アクション）」「考え抜く力（シンキング）」「チームで働く力（チームワーク）」の総称であると定義し、ここには「主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・創造力・計画力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール」の12の要素があるとしています。しかし社会人基礎力は12個の断片に分割できるものではありません。これらの要素が相互に関連して織りなされるのが基礎力なので、12個の要素を一つずつ達成すれば総体として獲得できるものなのでもありません。この科目では、かねてから産業界で指摘されている「指示待ち族（主体性の欠落）」の問題や、最近、とみに指摘されること多い「共感力の低下」の問題に留意しながら、それを克服するためのヒントを提供していきます。それが受講生のみなさんにとって「思考の補助線」になることを願っています。</p> <p>新社会人が指示待ち族になってしまうのは、大学を卒業するまでに「課題」や「指示」を与えられるばかりのポジションに身を置き続けていたからだと考えられます。課題がどのように設定されるのか、どうすればそれが課題として成立するのか、いうなれば「課題に関するリテラシー」を学ぶ必要があります。それを学んだうえで自ら課題を発見・発掘あるいは創出する練習を重ねていきます。自分の専攻とは異なる分野の研究（課題発見）の話を聞いて、課題発見からその解決に至るプロセスに共感することができるようになれば、自分の視点が一つ増え、視野が広がります。自身の持つ視点が増え、視野が広がれば、多面的に物事を考えられるようになり、人の立場になってものを考えることができるようになります。それは共感力の土台となるものです。この土台があれば、相手の気持ちや考え、意向を理解することができるようになり、それを満たすために自らを動かすことも可能になります。今求められるのは、そのようなサーバントリーダーシップ—その人が望んでいることをかなえてあげるリーダーシップ—です。今や上意下達型のリーダーシップは時代遅れだと心得てください。もちろん、こちらの涵養にも十分留意していきます。</p>
	<b>到達目標 / Course Objectives</b>
	<p><b>①知識・技能の観点</b></p> <p>「指示待ち族」（主体性が欠如した状態）がどのように作られてしまうのか理解し、説明できる。共感力が協調性の土台となり、Interpersonal skillの出発点になることを理解し、そのスキルの獲得を目指すことができる。Interpersonal skillには発信力や傾聴力のみならず、分かり合うことが困難であることを共有できる力が必要であることを理解し、その実践に取り組むことができる。社会でよりよく生きるために必要な知識やスキルについて自分の考えを説明できるとともに、他者の考えを理解することができる。</p> <p><b>②思考力・判断力・表現力等の観点</b></p> <p>社会でよりよく生きるために必要なことと姿勢などについて、多面的・多角的に考えることができる。ありとあることとらについて即断即決を求めず、判断を保留すること（critical thinking）ができる。どんなに意を尽くしても伝えたいようには伝わらないことを踏まえ、そのもどかしさを共有することを目指した表現をすることができる。</p> <p><b>③主体的な態度の観点</b></p> <p>早い段階で選択肢を一つに絞り込まず、複数の可能性を常に考慮しながら、グループでのコンセンサス形成に積極的に参加することができる。少数意見に共感を示しながら、多数決に頼らない合意形成ができる。自分のことを後回しにして、相手の願うこと、望むことをかなえてあげる働きかけをする（サーバントリーダーシップを発揮する）ことができる。社会でよりよく生きるために必要なことを体現するための営みに取り組むことができる。</p>
	<b>授業手法 / Teaching Methods</b>
	グループワークを中心に展開する学生主体型・学生参加型の授業
<b>授業計画 / Course Content</b>	

<p>授業計画 Course Content</p>	<p>授業はグループワークを中心に展開します。セメスターの前半は講師を招き、知的刺激に満ちた経験談を聴きます。自分とは異なる分野を専門とする人の話に共感することで、視野が広がり、視点を増やすことができるようになります。各回とも講師が課題を発見・発掘・創出する体験を支援するためのワークを用意します。</p> <p><b>第1回</b>：この科目のねらいを説明したのち、アイスブレイクを兼ねたグループワークを行います。その後、セメスターが終わるまでにどんなことをどのように達成したいのかを話し合い、グループブリックを作成します。</p> <p><b>第2回～第4回</b>：関西大学の教授による講話。教授がどのようにして研究テーマ（課題）を発見・発掘あるいは創出したか、それが社会や人々の生活とどのように関わっているのかを話してもらいます。自分の身近なところに課題の種子があることに気づくためには知的好奇心が不可欠であることを学びます。自分の周囲に「種子」を探すワークをします。</p> <p><b>第5回</b>：関西大学の職員による講話。合理的配慮やALLYなどについて学びます。自分の身近なところに障害者やLGBTQあるいはその他の問題に関して解決・克服すべき課題を探します。</p> <p><b>第6回</b>：就職の内定あるいは大学院への進学が決まった4年次の学生による講話。どのように自分の進路を決めたのか、その目標を達成するために克服すべき課題とはどのようなものだったのか、その課題にどのようにアプローチしたのか、社会に出てからの自己像をどのように描いているのかを話してもらいます。受講生は自分の進路を考え、何が課題となるのかを考えます。</p> <p><b>第7回</b>：関西大学の卒業生による講話。学生時代に学んだことが実社会でどのように役立っているのか、学生時代にしてあげよかったですと社会人になってから気づいたことは何なのか、これからの自身のキャリアをどのようにデザインしているのか、それを実現するために何が課題となっているのかについて話してもらいます。受講生は自身のキャリアをデザインしていく上で何が課題となるのかを考えます。</p> <p><b>第8回～第9回</b>：グループごとに解決すべき課題を設定します。課題の設定に当たっては、。複数の選択肢を一つに絞らないように留意しながら、多数決によらないコンセンサスの形成を目指します。他のグループの動向を共有できるようにWorld Cafeを必要に応じて実施します。第10回目以降の作業行程が見通せるように配慮しながら課題解決のためのアプローチについて考えます。</p> <p><b>第10回～第13回</b>：グループで設定した課題（テーマ）を解決するために調査や考察を蓄積します。第14回ならびに第15回の最終報告に向けてプレゼンテーションの準備と予行演習をします。</p> <p><b>第14回～第15回</b>：4グループずつが最終報告をします。いずれの報告発表に対して、受講生と第2回から第7回まで登壇した講師からコメントをもらいます。そのコメントによって加筆修正が可能な箇所については改善を加えます。最後にグループブリックに基づいてグループごとに自己評価をします。</p> <p><b>授業時間外学習 / Expected work outside of class</b></p> <p>Google slideやMicrosoft Teamsを活用し、授業時間外でもグループのメンバー間で新しい情報や意見を交換し、共有するようにします。</p>
<p>成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies / Evaluation Criteria/ Assessment Policy</p>	<p><b>方法 / Grading Policies</b></p> <p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価します。 毎回 課される小レポート (50%) グループによる最終報告 (50%)</p> <p><b>基準・評価 / Evaluation Criteria・Assessment Policy</b></p> <p><b>①知識・技能の観点</b> 主体性や共感を涵養するために何が必要であるかを理解したうえで説明できるかどうか。Interpersonal skillに必要なエッセンスについて理解し、説明できるかどうか。</p> <p><b>②思考力・判断力・表現力等の観点</b> 社会でよりよく生きるために必要なことから姿勢などについて、多面的・多角的な観点からクリティカルシンキングをすることができるかどうか。より高次のinterpersonal skillを発揚するために適切な表現ができるかどうか。</p> <p><b>③主体的な態度の観点</b> 少数意見に共感を示し、配慮をしながら、多数決に頼らない合意形成を導くことができるかどうか。サーバントリーダーシップを自らが発揮するために、あるいは他者が実践するために必要なことを理解し、それを実現あるいは支援することができるかどうか。</p>
<p>教科書 Textbooks</p>	<p>特定の教科書は使用しません。</p>
<p>References</p>	<p>特に指定はしませんが、必要に応じて紹介します。</p>
<p>フィードバックの方法 Feedback Method</p>	
<p>担任者への問合せ方法 Instructor Contact</p>	<p>オフィスアワー その他 必要に応じて 適宜 案内します</p>
<p>備考 Other Comments</p>	
<p>■授業評価アンケート 結果参照</p>	